

〔研究論文〕

## 家庭科教師の教材選択に及ぼす諸要因の検討

A study on factors affecting the selection of teaching materials by home economics teachers

兼 安 章 子

Akiko KANEYASU

福岡教育大学 教職実践ユニット

(2020 年 1 月 31 日受理)

本研究は、高等学校家庭科の授業において、教師が教材選択の際に認識する判断の根拠や材料とその要因を明らかにすることを目的としたものである。高等学校家庭科教師を対象とし、共通科目としての家庭科（家庭基礎・家庭総合・生活デザイン）授業で用いた教材の具体とその選択理由についてインタビュー調査を行った。調査結果から、生徒の実態、他教師との関わり、学校の前年度までの授業内容、授業時間数との兼ね合い、実習に使用する教材費、学校の方針や状況等が、教材選択に影響するものとして、教師に認識されていることが明らかとなった。また、それらの教師の認識から、前任者を含む他の家庭科教師の判断を尊重して教材を選択しているという点や、実習で用いる教材の選択が、その他の授業で用いる教材を左右している点がうかがえた。

**キーワード：**家庭科教師，教材，教材選択，高等学校

### 1 はじめに

教材は、授業の構成要素として捉えられるとともに、教師と学習者をつなぐ媒体である。教師の授業設計や構成の方法は様々であると考えられるが、単元構成には目標に次いで2番目に教材が重視されていること（吉崎 1991）や、教材開発の道筋において、教育内容を教材化する上からの道や、素材を教材化する下からの道という複数の道（池野 2009）が示されていることから、教材は教師の授業実践を左右する重要な位置にあるといえるだろう。

教材の定義は様々であるが、教材は関係概念であるとの見解から、「教育の目的・目標を達成するための内容を、教育の対象者に理解させるために制作・選択された図書その他の素材。広義には、教えるための道具としての教具を含む」（新井 2016）と定義づけられる。また、教科により教材の特質が異なることは言うまでもない。家庭科における教材は、家庭生活への還元が求められるこ

と、広範囲な分野の内容を対象とする教科であることから、「生活に身近な学習材を中心としつつ、学習指導過程や学習指導方法、学習環境などを含む全体的なもの」（高木 2013）として捉えられる。教材の検討を含んだ題材構成の際に家庭科教師に求められていることとして、高木（2013）は、児童・生徒の発達段階や興味・関心を把握するとともに、児童・生徒を取り巻く環境の質の向上に寄与できる授業を提供することをあげている。

これまで、家庭科教師の教材選択に関して、印刷教材が円滑な授業運営のためのものから児童生徒の学習支援のためのものへと役割変容する傾向にあり、教師の成長との関わりにおいて教材に着目することの可能性（高木 2010）や、授業デザインにおいて、家庭科教師は教材を軸としていること（兼安 2015）も指摘されている。磯崎（2016）は、教師のPCKについて、子どもの実態を考慮した教材化の過程に注目した分析により、小学校教師が複数の知識を組み合わせる教材化を行っていることを明らかにした。以上のことから、家庭科教師の教材選択に関する能力は、授業を構成する

上で非常に重要な役割を果たすといえるだろう。教師の教材選択の理由や、選択に至るプロセスの解明は、教師の授業に関わる思考に迫ることができる可能性を含む。教師が選択した様々な教材について、教師の行為や認識とあわせて分析することで、その内実に迫りたい。

一方で、学習指導要領（2017・2018年告示）解説において、授業で使用する教材が、必ずしも明示されていないことも、家庭科の特徴としてあげられる。例えば、食に関する内容を例に取り上げると、小学校では米飯やみそ汁が学習内容として取り上げられており、教材が指定されているが、中学校においては、そのような具体的な調理実習教材は示されておらず、魚・肉等の大まかな食材や、焼く・煮る等の調理方法があげられている。高等学校の共通科目である家庭基礎・家庭総合においては、具体的な教材名や調理方法は示されておらず、教師には、それらを選択し、計画することが求められている。これらを踏まえると、とりわけ高等学校家庭科教師には、教材選択の能力が求められるだろう。本研究では、教材選択について裁量権がより大きな高等学校教師を対象とすることで、教材化可能な多くの事物から、教師が1つの教材を選択する理由に着目したい。

そこで本研究では、高等学校家庭科教師が教材選択時に認識する判断の根拠や材料とその要因を明らかにすることを目的とする。

## 2 研究方法

本研究では、高等学校家庭科教師3名へのインタビュー調査を行った。様々な学科を持つ高校があるが、本研究においては、多く設置されている学科である、普通科、家政系専門学科、総合学科の教師各1名を対象とし、事例的に検討することとした。対象者の属性は表1に示すとおりである。

インタビューは1～2回（いずれも40～90分程度）であるが、インタビューデータとあわせて、メール等で補足の情報や教材の写真等を得て、それらも分析に用いた。文字に起こしたインタビュ

表1 インタビュー対象者の属性

	現任校	調査年月	教職歴	共通科目
A	総合学科	2015.4 2015.8	6年	家庭総合
B	家政系・農業系	2015.4	8年	生活デザイン
C	普通科	2015.3	17年	家庭基礎

ーデータは、意味の取り違い等が生じないように、インタビュー対象者に確認・修正してもらったものを用いた。学校名や個人の特定に繋がる固有名詞、郷土料理等地域に関わる名称はアルファベットを用いて表記した。

調査時期は2015年であり、2009（平成21）年の高等学校学習指導要領に基づき授業が実施されていた際に調査したものである。すべての授業で用いた教材について調査することは対象者への負担となるため、本調査では、高等学校で必修として設定される内容を基本とした。学習指導要領（2010年告示）においては、家庭科の共通科目について、家庭基礎（2単位）、生活デザイン（4単位）、家庭総合（4単位）の中から、1科目を履修させるものとされた。これらの科目設定は、各学校に委ねられている。また、3科目は単位数も異なっており、学習内容にも違いがみられるため、統一した授業内容についての調査は困難である。そこで、いずれの科目の学習においても基礎となる中学校の学習指導要領（2008年改訂）技術・家庭科家庭分野の「A 家族・家庭と子どもの成長」「B

表2 述べられた教材名

A 教師	エプロン、ティッシュボックスカバー、住宅広告、防災のDVD、豚肉のくわ焼き丼、みそ汁、きゅうりともやしのナムル、ミートソーススパゲティ、鰯のかば焼き、餃子、春雨、弁当、ドライカレー、フランクフルタークランツ、バター、マヨネーズ、ロープ、鳥肉のトマト煮込み、果物ゼリー、牛乳寒天、けんちん汁、クルミまんじゅう、卵焼き、ミニハンバーグ、ブロッコリー、きんぴらごぼう、キャベツのせん切り、コールスローサラダ、さらし布、フェルト、バンダナで作る巾着袋、手縫い糸、ミシン糸、綿（布見本）、麻（布見本）、タイ米、玄米、パズル、ブラウス（シャツ）、甚平、パンツ、スカート
B 教師	エプロン、三角巾、蚕、綿花、洗剤、求人票、アクリルたわし、きゅうりの半月切り・小口切り、親子丼、すまし汁、麻婆豆腐、杏仁豆腐、ピラフ、サラダ、婚姻届、住宅情報誌、スポンジケーキ、デコレーションケーキ、ピザ、パン、ドライイースト、マドレーヌ、クッキー、カスタードプリン、郷土料理Y、郷土料理Z
C 教師	生活習慣病の紙芝居、マドレーヌ、コーンスープ、ハヤシライス、サラダ、洗剤、柔軟剤、エプロン、ミシン、刺繍糸、住宅情報誌、高齢者体験の道具、ダンボールコンポスト、折り紙、童謡、手遊び、乳幼児の写真、胎盤の写真、出生時の新生児の写真、料理レシピアプリケーション

食生活と自立」「C 衣生活・住生活と自立」「D 身近な消費生活と環境」の4つの分野の必修に沿って、分野毎に質問することとした。

インタビュー内容は、各分野で用いた教材とその選択に至る経緯や、その理由について、現在の学校の状況や仕事内容等とした。関連する内容について、自由に述べてもらったため、前述の内容以外のものや、現任校だけでなく以前の勤務校での内容も含まれている。また、教材について、実際に使用したものだけでなく、授業構想段階のものや、使用を中断したり、使用しなかったりしたものも述べられた。インタビューデータから、使用したもしくは、使用を検討した教材として述べられたものは、表2のとおりである。

### 3 教材選択の理由

インタビューデータから、教材について選択(を検討している)理由、もしくは選択しなかった理由について述べられたものを分析に用いた。特に、教材選択の理由として、次の(1)～(6)をあげることができる。

#### (1) 生徒の実態

生徒の実態から、教材の内容を検討する事例が多く述べられた。まず、多く述べられた生徒の技能実態を考慮した教材選択について示す。

昔は裁断、線引いて、型紙描いて、それで切るってところからさせてたらしいんですけど、なかなかちょっとそれが難しいからってことで、今もうプリント済みの(キット)を買って、それを切らせてやっているとところからやります。それも難しいかもねっていう話にはなってきたんですけど、(中略)できる限りはやっぱり布から、値段も裁断済みと全然違うので、まだできるだろうと思うので、しばらくは布からで。(A 教師)

(調理実習について) 生徒の技術的に、これじゃ時間がかかり過ぎるっていうと、大体教科書には(中略)4品ぐらい作るような感じで載ってるけど、4品とか作ったらできないから、親子丼とこの2品ねとか、そんな感じでやって。あとはやってみて時間がオーバーした時は、来年は変えようとか、そういう感じでやってますね。(B 教師)

ピザも、ほんとにドライイーストの扱い方をもっとやりたいけど、(中略)時間の関係が大きい。本当は学ばせたいけど、2時間じゃ収まらないからやめようとか、それが大きいかな。(中略)生徒が思った以上に時間がかかるから、いろんなことに。(中略)結局学ばせたいことより、時間内でできることを取ってしまってるかなっていうところです。(B 教師)

より多様な技能や知識の習得が見込まれる教材や、多くの教材を用いたいという希望はあるものの、生徒の技能実態から教材を選択せざるを得ないと認識していた。また、技能以外の実態についても述べられた。

技術検定を受ける学校(以前の勤務校)だったので、もう本当、1学期は4級と3級、巾着みたいな(ものの製作を)ミシンでやるのと、パンツ等をやって、2学期から甚平なので、(中略)3学期でスカートっていうものを作るっていう流れで来てたので、1年目行ったとき、それでさせていただいたんですけど、3学期にスカートするときに、男子が何人か居て、(中略)3学期にブラウス(シャツ)持ってきたら、いいかねっていうことで、次の年から3学期ブラウス(シャツ)を作るようにし(中略)しましたね。(A 教師)

すぐ一人暮らしする子もいるから卒業して。だからこの辺の住宅情報誌を持って行って(中略)その中で自分が住みたい家を選ばせて、その間取りに自分がどういうふうに、何をどこに置くかっていうの計画させて、ちょっと家庭経済とかも関わるけど、新しく生活始めるのにどれくらいお金かかるかっていうところ。(B 教師)

生徒の実態として、レディネスに加え、性別や卒業後の生活を考慮して教材を検討している。

特に技能面については、授業を実施する中で、レディネスを測りながら、検討を繰り返している。

また、技能面において、授業時間内に終了できる能力があるか否かという点が重視されており、時間をかけた場合にできるか否かという点は、重視されていない。

#### (2) 他教師との関わり

他教師との関わりとして家庭科教師らとの関わり

りも教材選択に関連していることが述べられた。

今年は調理実習のときに、なんか実技テストを入れたらいいんじゃないですかっていうのが、一緒に働いているD先生から提案があって、過去にしていたこともあったらしいんですけど、最近はしてなかったけど、評価しやすいと思うということで、そうだなと思ったので、取り入れようと思って、(中略)1学期はキャベツのせん切りでテストをしました。(A 教師)

また、校内の家庭科教師への相談については、次のように述べている。

今は(家庭総合の)主担当でいろんな先生に私が考えたプリント(で授業を)やってもらうからすごいっぱい相談しないといけないんですけど。(中略)自分一人だったら自分のペースでいいんですけど。いろんな先生に、非常勤の先生にもお願いしないといけないので。(中略)テストに出そうと思うところは、これは言うてくださいていうふうにして。で、テストも作ったらこれで出しますが教えてますかっていうのを皆さんに見ていただいて。全て早めにしないと進まないような。(A 教師)

(学習プリントについて)この表現はやめたほうがいいですとか、というのを言われて、そこをゴッソリ抜けたとかはあったりしましたね。(中略)大体基本的には、私が作ったものの大筋でいいよって言うてくださって、あとは本当、細かいところとか、ちょっとつづりが違っていたり、印刷ミスじゃないですけど、そういうのがあったりしたら教えてくださったりとかって感じですね。(A 教師)

A 教師からは、相談しているという認識が述べられたが、教材そのものについて相談したという内容は前述の実技テストの内容を除いて、述べられなかった。特に、使用する教材そのものを検討する際の相談というよりも、授業で用いる学習プリントの記載内容について相談することが多いと考えられる。

一方、B 教師は、地域の教師らと同一の授業内容に取り組んだ事例について述べている。

最近中食を利用する機会が多いからそれをうまく使えるようにしましょうっていうので地区(近隣市町村を複数合わせた地域)全体で取り組んだんですけど。(中略)夏休み中に中食を利用した食事を500円を予算として買ってきなさいって言うて。で、それを写真を撮ってレシートを貼って、あとでその栄養を分析するみたいなのを地区全体でやりました。(中略)買ってきたりしてお互いに話し合ったりするっていうことをもっと取り組んだ方がいいんじゃないかなっていうふうに地区でなってる。(B 教師)

B 教師のように、近隣校の教師らと同様の内容に取り組む事例は、他の教師からは述べられなかったが、A 教師からは、教師らの情報交換を参考にしているという以下の内容も述べられた。

年に1回、集まり、(県の)家庭科の総会とかもあって、(中略)大体そこで情報交換があって、1時間でできる調理実習とか、こういう科学的な実験、食物のっていうののやり方とかの紙とかを、たまに持ち寄ったりしていた時期があったので、そういうのとかも、ちょっと参考にしながら。(A 教師)

A 教師は研修を参考にした旨を述べているが、実際に具体的な教材選択との関連においては述べられておらず、他教師との情報交換が結びついてる事例は確認できなかった。

しかしながら、校内だけでなく校外も含めた教師間の情報交換や研修が教材の変容に結びつく可能性は十分に確認できた。

### (3) 学校の前年度までの授業内容

各学校で、前年度までの授業内容を参考に、教材選択を行っていることが複数述べられた。

過去のシラバスとかを見ていたら、パズルを作るみたいなことが書いてあって、そういう作業をさせたら楽しいかなって思うので、子どものおもちゃっていうような感じで、なんか作らせてみようかなと、少し思ったりはしています。(A 教師)

(バターとマヨネーズを)いつから取り入れたかは分からないんですけど、割とだいぶ前から取り入れてはいると思います。で、結構



その前いた先生の考え方だと、実際に体験まではいかないんですけど、やっぱりやって見せた生徒の反応とかも違うし、記憶にも残りやすいからってということで、実演形式、実験とか、そういうのを、よく取り入れようっていう（後略）。(A 教師)

過去のレシピを見ても、ほぼそんな感じなので、あんまり大幅には変わってないんだと思います。いつから（調理実習が）7 回になって、それがもうずっと、定着している感じで。(A 教師)

前年度までの授業内容を参考にした教材選択について、B・C 教師に比べ A 教師から多く述べられた。これは、A 教師の現任校に、計 5 名の家庭科教師が在籍しており、過去の教材について引継ぎが容易にできる状況であるからと考えられる。また、B・C 教師の勤務する学校においては、教諭が 1～2 名程度の配置であることや科目（共通科目以外も含む）を分担して担当していること等から、情報交換や引き継ぎが容易に行えない状況であることが影響していると考えられる。

#### (4) 授業時間数との兼ね合い

インタビュー調査実施当時、前述の通り、共通科目の単位数は 2 もしくは 4 単位であった。このようななかで、授業時間数との関連における教材選択の理由が複数述べられた。

時間があったら（と思って）、去年住居の防災の DVD を買っていて。災害が起きたときにどうするかとか。災害に備えて住居でどういうふうにしておきましょうという 20 分ぐらいの DVD を買って。それを見せたかったんですけど、去年見せることができなくてすごく残念だったので。（中略）できれば被服の実習とかも早めにやって。そういう予定で。(A 教師)

実物の綿とか蚕とかそういうのを見せるとか。あとは洗剤とか見せて。あとはあんまり実験とかする時間がなかったので映像を（中略）スクリーンとかで映して、そういった映像を見せるとかそういう感じで指導してたかな（後略）。(B 教師)

保育園への訪問について、時間的な問題を C 教

師は次のように述べている。

今までの学校でもあったりとかしたんだけど、E（以前勤務した高校）ほど近いところにあれば、（中略）やったりもするけど、でもねなかなかね、今その家庭基礎の短時間で（は難しい）。(C 教師)

以上のように、授業時間数が壁となり、教材の選択肢を絞らざるを得ない状況も確認された。これは、2 単位の家庭基礎を選択している学校だけでなく 4 単位の家庭総合と生活デザインを選択している学校においても同様に述べられており、実施できる授業時間数が教材を制限していると認識している。

#### (5) 実習に使用する教材費

ここでは、学校側の予算で購入する教材についてではなく、生徒から徴収する教材費について検討する。この教材費を使って、学校側が一括して購入する場合が多い。

A 教師は、次のように調理実習の費用について述べている。

（調理実習で用いる教材は）去年通りいきそうなんですけど。ただいろんな食材が値上がりとかするので。基本的な献立は変えずに一品だけちょっと変えるとかいうことをするかもしれない。（中略）うまく値段が収まるように。(A 教師)

また、A 教師は 2 回目のインタビュー時にも以下のように述べている。

今年は一応、もう（調理実習の）メニューを固定したほうがやりやすいだろうなっていうのはあるので、一応去年どおり進めてはいるんですけど、予算の関係と生徒の技術的な面を見て、2 学期以降のメニューを、少し変えるかもしれないなとは思っています。1 学期はもう一応そのままだったんですけど、2 学期からのものを、材料をたくさん野菜を入れる所、1 品、食材で減らすとか、なんか、ちょっと予算のほう厳しくなりそうな感じは（ある）。（中略）食材の値上がりとかもありますので、それをちょっと変えようかな、とは思いますが。(A 教師)

このように、2 回のインタビュー時のどちらにおいても予算に関して同様のことを述べている。景気や気候等に関わって、物価の高騰や農作物の生産状況等の価格変動に左右され、教師の教材選択は影響を受けざるを得ない状況がうかがえる。

長いことティッシュ（ボックスカバー）なので、他の（もの）に変えようかっていう話が、家庭科の会議でもあるのはあるんですけど、やっぱり値段的なものと、一気に技術を（習得）できるっていうところとかを考えると、なかなかティッシュ（ボックスカバー）に代わる教材がなくて、バンダナで作る巾着袋とか、昔講習会とかで習ったんですけど、バンダナってやっぱり 1 人 1 枚で 100 円したら、ティッシュ（ボックスカバー）の 4 倍の値段にはなるから、それを思うと（中略）基礎縫いでやったことを試してみるには、今のこの流れがいいのかなと。（A 教師）

（エプロン製作のキットは）値段も裁断済みと全然違うので、まだできるだろうと思うので、しばらくは布からで。（A 教師）

その他の教材を検討していたが、予算の関係から、現在の教材を選択したことが述べられた。また、C 教師からは、次のようなことが述べられた。

（教材費が生徒 1 人につき）1000 円で 1 年間は結構かなりきついついて言ってね、（他の同僚の先生と）言ってた。（C 教師）

教材費は、前年度と同様の金額が設定されていることが多い。この金額設定によって使用する教材が制限されていることもうかがえる。生徒から徴収する教材費については、各学校のこれまでの流れを踏襲する形で予算が設定されていることから、必ずしも家庭科教師の裁量で決定できるものとは言い難い。生徒の家庭には、各教科等の教材費等が請求されており、それらを加味した場合、前年度よりも高額に設定を変更することは難しい状況であると推察される。

#### (6) 学校の方針や状況

学校の方針や状況を受けた教材選択について、以下のような事例が述べられた。

家庭科で被服検定 1 級を目指しているのもあ

って、それに絡めて 1 年の時から指導するので F 科（家政系学科）のほうは、最初基礎縫いとかから始めるけど、手縫いとか、ミシン縫いの基礎縫いで、被服検定の 4 級もそこで取得します。それからその後被服検定 3 級のハーフパンツの練習に入るっていうのが（中略）流れとしてずっと検定はやってるので、その教材は変わってないですね。ずっと。検定の題材が変わらない限りずっとそれ。（B 教師）

G 高校の時は、H（G 高校のある地域）はなんかすごく環境のことを大事にしていたのでやってたんだけど。（中略）なんかね地域密着な感じで、こう農家の人が学校に来て授業したりとか、（中略）ダンボールコンポストとかもやってたんだよね。（C 教師）

うち（現任校）はあんまり交流がある幼稚園、保育園ないから、作らせたりしてなくて、手遊びとか童謡とかそういうものを何か紹介したりだとか、実際に。（C 教師）

教師らは、学校と地域との関係について重要視しており、それらを活用した教材の選択が行われている。地域資源と教材選択にも関わりがあると考えられるが、地域との新たな関係構築を推進するような内容は確認できなかった。また、技能検定試験の受験など、学校・学科が提供するカリキュラムに関わった内容についても、指導が求められており、それらを重視した教材を選択せざるを得ないと考えられる。

#### (7) その他

季節、気温の関係や、既習事項との兼ね合い、授業場所、研修等から教材選択への影響する事例が少数であるものの認められた。

2 学期に、（中略）鳥肉のトマト煮込みと、アガーで作る果物ゼリーを、確か 2 学期最初にやって。（中略）餃子のときは牛乳寒天を作って、寒天を使うんですけど、ちょっとその 9 月に入って鳥肉の（献立で実習）するのに、まだ暑いからゼラチンだったら、ちょっと（適さない）っていうのがあって、寒天はもうやっているしっていうことで、アガーを（使った）、あんまり多分生徒は聞き慣れないとは思うんですけど。（A 教師）

お菓子作りをやる時に、前まではマドレーヌとクッキーをやって。で、2 つともオープンを使うから、ちょっとやっぱり時間厳しいなと思って、カスタードプリンを蒸し器で。(B 教師)

I 先生が出している本で生活習慣病のね紙芝居があるのよね。で、その紙芝居を使って話をして、で献立作成。(中略) その生活習慣病のね、紙芝居すごくいいのよ。(中略) 家庭科の研修でその I 先生が講演をされて、でその時に紹介があって、もうすぐ本を買って、でそれから授業で使って。(C 教師)

以上のように、教材選択には物理的な要因も含めて、(1)～(6)以外にも、様々な教師の認識関わっているものと考えられるが、本研究における調査では多くは確認できなかった。

#### 4 おわりに

教師が認識した選択の要因として、生徒の実態、他教師との関わり、学校の前年度までの授業内容、授業時間数との兼ね合い、実習に使用する教材費、学校の方針や状況等があげられた。それらの認識から次の2点を指摘できる。

まず、前任者を含む他の家庭科教師の判断を尊重して教材を選択しているという点である。例えば、教材費の予算を前年度と同様に設定するという教師の判断は、前任者や同僚である家庭科教師を尊重した判断であるともいえる。これは、授業内容に関しても同様の傾向にあり、生徒の技能実態を把握しながら行われた前年度までの授業内容を重視する傾向にあるといえるだろう。これまでの家庭科教師らが実施した過去のカリキュラムは、教師らの教材選択の幅を広げる材料となっていた。このような教師の判断は、前年踏襲を重視し、変容を拒む可能性も含んでいるが、これらが教材の変容を生むことにも繋がっていた。

次に、実習で用いる教材の選択が、その他の授業で用いる教材を左右している点も指摘できるだろう。前述のように教材費の関係上、実習で使用する教材をある程度決定した上で、各年度の授業が開始されているものと考えられる。前年度までのカリキュラムにおける授業の実施状況は把握しているとはいえ、当該年度の生徒の技能実態を十分に把握しないまま、実習で使用する教材の決定

が迫られている。レディネスを十分に確認せずに、授業を開始しなければならず、さらに、新年度の授業開始時には、教材費が設定され、教材選択は制限される状況にある。また、教材費をおおよそ使い切らなければならないことから、実習教材をある程度選択した後に、その他の授業内容を決めざるを得ない。これらのことから、実習で使用する教材が、教材費を使用する実習を伴わないその他の授業内容を左右している状況にある。生徒の実習に関わるレディネス、実習に必要な時間数が予想されるものと違っていた場合、実習教材以外の教材を変更することで調整しなければならない実態にある。予算や授業時間等を柔軟に組み替える等、教師の判断を尊重することのできる設定が求められるだろう。

本研究は、少数の調査であるため、ただちに一般化することは避けなければならないが、一定の成果を得ることができたと考える。今後は、本研究の知見を基盤として、教材選択に至る経緯や授業実施、次年度の教材選択など長期にわたるプロセスや、教材選択の複合的な背景に迫りたい。今後も、教師の教材選択の内実に迫ることで、教師にとっても有益な知見を提供したい。

#### 主な引用・参考文献

- 新井郁夫 2016 教材とは 日本教材学会編 教材学概論 図書文化社 7-15.
- 池野範男 2009 授業研究による教科指導の改善 日本教育方法学会編 日本の授業研究—Lesson Study in Japan—授業研究の方法と形態〈下巻〉学文社 45-49.
- 磯崎尚子 2016 家庭科の授業を行う小学校教師のPCKに関する研究—若手教師と熟練教師の教師知識に関する比較研究— 日本家庭科教育学会誌 59 巻 3 号 125-134.
- 兼安章子 2015 中学校家庭科教師の授業デザインに関する一考察—業改善に影響する生徒の実態に焦点をあてて— 九州教育経営学会研究紀要 第 21 号 35-42.
- 文部科学省 2008 中学校学習指導要領解説技術科・家庭編.
- 文部科学省 2010 高等学校学習指導要領解説家庭編.
- 文部科学省 2017 小学校学習指導要領解説技術科・家庭編.
- 文部科学省 2017 中学校学習指導要領解説技術・家庭編.
- 文部科学省 2018 高等学校学習指導要領解説家庭編.
- 二杉孝司 2014 教材と教具 日本教育方法学会編 教育方法学研究ハンドブック 学文社 146-149.
- 高木幸子 2010 教材の役割変容からとらえる授業実践力の向上—教育実習生から教師への成長— 教材学研究 第 21 号 111-120.

- 高木幸子 2013 家庭科における教材 日本教材学会編 教材事典 教材研究の理論と実践 東京堂出版 312-315.
- 吉崎静夫 1991 教師の意思決定と授業研究 ぎょうせい 27-29.

### 謝辞

インタビュー調査にご協力いただきました先生方に、心より感謝申し上げます。